

東中国キリスト者

障害を共に学び共に担う会

シャローム



第二五三号

二〇二二年二〇月五日発行

目次

説教	大塚忍牧師
明日の朝、神さまがいらっしゃるよ	松岡義人・朋子
石丸昌彦医師の「明日へのヒント」を	
拝読して	難波幸矢
神はわが誓	横野朝彦牧師
平良修牧師の就任式祈禱	難波幸矢
会計報告	清水章文
編集後記	難波幸矢

説教

「隣人と共に」

マルコによる福音書2章1〜12

日本キリスト教団

岡山教会牧師 大塚忍

「四人の男が中風の人を運んで来た。しかし、群衆に阻まれて、イエスのもとに連れて行くことができなかったため、イエスがおられる辺りの屋根をはがして穴をあけ、病人の寝ている床をつり降ろした」(マルコ2・3-4)

新型コロナウイルス感染拡大にともない、わたしたちの世界は様々な対応策をとってきました。教会も、様々な対応をとりながら活動を続けてきましたが、すでに一年半以上の時が経過しました。このような感染症のパンデミックは百年前にも、一九一八年から一九二〇年の三年間にわたって発生しました。「スペイン風邪」とよばれる感染症でした。当時のキリスト教の様子がまとめられた本『二〇〇年前のパ

ンデミック〜日本のキリスト教はスペイン風邪とどう向き合ったか』が出版されました。この本を公にするためには、各執筆者は苦労したようです。当時の資料がほとんど残っていないからです。残っていたとしても、「スペイン風邪」に関する記述が圧倒的に少なかったからです。

最初に読んだのは「スペイン風邪と日本組合基督教会」でした。「一九一八年、スペイン風邪の流行中にもかかわらず、11月9日から12日まで集会を強行した岡山教会には最大で365名もの参加者が集いましたが、説教者だった木村清松は集会後に感染が発覚し、しばらく休養を余儀なくされたとの記録もあります」と記されていました。執筆者の李元重氏は、岡山教会だけではなく「当時の組合教会のスペイン風邪に対する意識はおどろくほど低かったと言わざるを得ない」、「組織としての『組合教会』がスペイン風邪に対して取り組み課題になっていなかったことは深刻な問題ではないでしょうか」と記していました。さらに以下のような評価をされていました。「様々な教会の報告の中では、

より深刻な状況で苦しんでいる教会が見られました。そのような教会に対する援助や患者に対する救済活動のようなものを見つけたことはできませんでした（中略）

1918年から1921年の間の組合教会の各種記録の中では、問題を共有し一緒に対応したり、一つの事業として取り組んだりといった活動の痕跡はまったく見られませんでした」と。むすびにも、厳しい言葉が記されていました。「時代が社会に対して要求している行動を實踐する」とは怠っていたのではないのでしょうか。

『奉仕』を強調しながらも、実際それぞれキリスト者と教会と共に暮らしている社会の弱者に仕える方法を知りませんでした」と。

現代のわたしたちの教会はどうか、と振り返る機会が与えられました。教会も新型コロナウイルス感染拡大に対して様々な取り組みを行ってきました。しかし、「社会の弱者に仕えているでしょうか」。感染拡大を防ぐことに最善を尽くすのは大事なことです。同時に、社会の様々な変化の中で、貧富の差が拡大し、差別の問題も予

期せぬ形で現れている現実の中で、教会はどのようにその問題に向かい合っていくのか、ということが改めて問われているように感じました。

マルコによる福音書2章1節以下には、中風を患う人と四人の人が登場します。四人はその一人を寝床のまま運んできた人々です。彼らは、イエスならこの人の病を癒やしてくれるはず、と期待しながらやって来たのです。しかし、大勢の人たちでイエスに近づくことができませんでした。そこで彼らは、屋根に上がって寝床をそのまま釣り下ろすという方法を考えたのです。聖書には「イエスはその人たちの信仰を見て」と記されています。ここで用いられている信仰とはイエスへの全幅の信頼という意味の言葉だとも考えられています。この四人は一人の苦しんでいる人間に対して見て見ぬふりが出来なかったのです。一人の友の苦しみに寄り添い、屋根から患者を釣り下ろすという行動へと押し出されていったのです。イエスは、彼らへの信頼と共に、四人の友を思う姿に心を打たれたのではないのでしょうか。

ここに記されている四人は「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」というレビ記一九章一八節の言葉を実践すべく、一人の人の救いのために動き出したのです。隣人を愛するとは、動きが伴うことなので、苦しむ人間に向かい合い、家の屋根を剥いで釣り下ろすような行動が伴うのです。今、信仰生活を送るわたしたち、イエスの言葉を聞くわたしたちも問われています。「隣人と共に生きる」とは」と。



明日の朝、神さまがいらっしゃるよ

日本キリスト教団 鳥取教会

松岡義人・朋子

鳥取教会を初めて訪ねたのは1964年8月のこと。勤務先の鳥取赤十字病院の医師や看護師さんの紹介である。教会では青年会の皆さんに快く迎えられてその年のクリスマスに受洗。1966年のクリスマスに妹が、1968年のクリスマスには妻がそれぞれ受洗した。視覚に障がいのある私には聖書を読み切ることが苦手で、ある牧師先生には胸ぐらを捕まれて「もっと聖書を読みなさい」とお叱りを受けたり、責任役員の方からはいろいろと指導いただいたりと決して良い信徒ではなかった。そんな中で1991年の8月には職場の有志でヘレン・ケラーの足跡を訪ねる旅にかけた折りに立ち寄ったエリオット教会のことや、1992年夏にはイスラエル・エジプトの旅でイエスとその世界を訪ねたことはとても貴重な思い出となっている。教会の皆さんに喜んでもらえたことといえば、2001年11月に発行のこ

ろの友「音楽を通して心からの感謝を伝える」で紹介されたバイオリニスト川島成道さんの演奏会を鳥取教会創立110周年記念事業として地域の音楽愛好家の皆さん48人と一緒になって実施したことがある。1997年7月3日付けの朝日新聞「天声人語」を妻が私に読んでくれなかったらこんなことはなかったと思う。

今日まで52年間苦楽を共にして来た妻は6年前鳥取生協病院で受診した脳ドックでアルツハイマーの症状が判明。このことがあってから妻は自分の病気のことを氣遣つてことあるごとに「ごめんね。ありがとう」と私に声をかけるようになった。以前にもまして教会に行くことを楽しみにするようになったが、朋子は今春のイースター礼拝の翌朝、突然歩けなくなつて、2年前からお世話になっていました橋本外科デイケアの院長先生の往診。そして夕方には急きよ入院となりました。4月9日には院長先生とケアマネさんの3人で協議の結果自宅への退院は困難であることを言われ老健などの専門施設の紹介を受けているところです。

その頃は一番危険な状態にある時期で妹夫婦と協議の結果葬儀の準備もしました。教会の墓地委員会の皆さんにはいろいろとお世話になつて感謝しています。

コロナ禍の中で面会はなかなかできませんが7月29日にはたまたま病室が一人だけになったときがあつて、30分近く院長の特別の計らいで面会ができました。月曜日と木曜日には洗濯物の他に暖かいコーヒーとお菓子、そして毎回看護師さん向けと朋子に手紙をこづけます。その数も9月末現在50通を超えて、30通の返事がありました。多くは看護師さんの代筆ですが最近は今時自筆で「コーヒーがおいしかった」とか「ありがとう」とか書いてあるとこちらも元気がでます。パジャマの上にはレリアンで購入したベストやTシャツ、靴下、靴などでリハビリに出かけています。

一方私は朝は妹とラインで安否確認をし、朝・昼は近くの喫茶店で、夜は専門の業者によるお弁当配達で健康的な食生活を送っています。そして私の周辺では教会のみなさんや患



者さん、友人など30人近い人がそれぞれ無理のない範囲でサポートしていただいていることに感謝している今日この頃です。

いつの日か病院の許可をいただいで皆さんにお会い出来るそんな日の来ることを願いながら筆を置く

石丸豊彦医師の

「明日へのフロント」を拝読して

難波幸夫

以前にキ障共の講演会でお招きした石丸豊彦医師の文章を、2020年12月26日の教団新報で拝見。流石と感動を受けましたので、前回153号までの感動の本「それでも一緒に歩いていく」(牧ノ原やまばと学園)を紹介させて頂いたように、「ここでまた石丸先生の文章を紹介させて頂きます。ただし今回はかなり先生の文章そのままにお伝えすることにしました。

……「コロナ鬱」について尋ねられることが多くなり、メンタルヘルスの不調がさぞ増えているのではあるまいかと、最も懸念だ。「コロナ肺炎の感染者やその家族、医療や福祉の従事者など直接の被害者、関係者の辛苦は察するに余りある。飲食店の経営者や従業員のよう「コロナ禍」と「コロナ対策の煽りを受けて経済的に窮迫する人々の苦悩も深刻であろう。」

一方、いじめまで互いにほむほむの距離

を保つてそれなりに安定していたであろう夫婦や家族が外出自粛などで、些細な口論が耐えなくなる。感染者や経済的困窮者に比べれば些細なことの難つに思えるが長期にわたるにつれ心の体力を奪う。

実はこのようなことが、多くの教会においても直面しているものではないか。じわじわと体力を奪っていく慢性的な機能不全ではないかと言われる。

しかしよく考えたら今に至るまで事ではない。社会を見渡せば、職場の過剰労働とハラスメント体質、社会格差と家庭の貧困、地域ネットワークの不在と生活者の孤立など、いずれも前々から指摘されてきたことが、「コロナ禍をきっかけに抑えがたく顕在化している。潜在的な弱点がストレス負荷によって顕在化するの、普遍的な構図である。

それならここは一番、これまで先送りしてきた問題に改めて正面から取り組んだらどうだろうか。それぞれの教会でテーマを選び、この機にどう変わりたいかみんなで見つめるべきではないか。

皮肉なこと精神医療の現場では「コ

大禍をきつかけに長年の苦勞から解放され
た人々も少数ながら存在する。パニック障
害に伴つ乗り物恐怖を抱えていた人々は
その一例で、通勤電車の殺人的な混雑がテ
レワーク推進で緩和されたおかげで、生活
が劇的に楽になった。永年飲み続けてきた
抗精神薬が不要になった例さえあると。

どんな災難にも必ず明日へのヒントが
隠れている。「コロナ禍自体は決して歓迎で
きないが、これを神が与え給つた自問と成
長の機会とすることは充分できるはずだ。
それは世々の教会が現に辿つてきた道でも
あると仰っていました。

なお先生は「キリスト教メンタルケア
センター副理事長」です。



「神はわが砦」

隠退教師・元岡山教会牧師

横野朝彦

1527年、ヴィツテンベルクがペスト
に襲われた時に、マルティン・ルターが同
僚に宛てた手紙です。

「わたしはまず神がお守りくださるよう
にと祈る。そうして後、わたしは消毒をし、
空気を入れ替え、薬を用意し、それを用い
る。行く必要のない場所や人を避けて、自
ら感染したり他者に移したりしないよう
にする。わたしの不注意で彼らの死を招か
ないためである。しかしもし隣人がわたし
を必要とするならば、わたしはどの場所も
人を避けることなく喜んで赴く。」(神戸
改革派神学校校長 吉田隆氏訳)

このとき、人々は街を離れ、ルターも転
居を勧められました。彼は留まって、病
人と死に瀕している人たちの世話をしま
した。

ルターの作詞作曲による讚美歌 21・
377 「神はわが砦」には、「わが命 わ
がすべて とらばとれ」と歌われています。
この歌詞の原文には、「子ども、妻を取れ」

と、悲愴なほどの言葉が含まれています。
この曲が書かれたのは1528年です。
この年の1月、ルターは病弱の子を1歳で
亡くしています。また前年のペスト禍で彼
は多くの人の看取りをしました。その体験
を背景とした信仰告白がこの讚美歌にあ
ります。



平良修牧師の就任式祈禱

難波幸矢

自民党総裁選がテレビや新聞を賑わせ
ています。河野、岸田、高市、野田の4人
が立候補、29日に分かるそうですが、私
は自民党党員ではないので選挙権はあり
ませんが、何せこれからの国のありように
係るのでごく関心はあります。

3人の、付け焼刃的にか思えない言葉
から、野田さんのように現場を見つめ経験
してきたであろう言葉までいろいろです

が、コロナ対策に始まりエネルギー問題から社会保障、対中国をはじめ政治姿勢に至るまで、記者に聞かれたテーマについてしっかりと耳に優しい言葉も並んでいます。

不思議なのは、沖縄が党派を超えて全県あげて辺野古への基地移設に反対し、最近では埋め立てに使われる土砂に沖縄本島南部のものも使われることになり、沖縄戦で亡くなった犠牲者の遺骨を含む土砂として一層反対の立場を顕わにしているにもかかわらず、一切この話題は無い。

まず記者が質問しないのだからそこも問題。辺野古の海岸沿いが、埋め立てを始めてすぐ土台が柔らかくて予定よりも期間的に長くかかり、経済的にも高額になっていく事が分かっているから、何としても米軍のためには作るのだという政府のやり放題を、結局国民全体が認めているという事ですね。

この時は「割り箸も楊枝も立たぬマヨネーズ」と川柳で揶揄されましたが本土側の人はスルーでした。アメリカ自身が辺野古はいらないと言っているにも関わらずです。これに関して一体4人の立候補者たち

はどうするのでしょうか。それが聞きたい。

いわゆる人権派の人もこのような沖縄に課せられている沢山の課題をつい「沖縄問題」という言い方をしますがまさに「本土側問題」なのですよ。

「平良修牧師の就任式祈禱」という題なのに何を言ってるの？と思われたでしょうね。就任式祈禱というのは次の言葉です。

……「神よ、願わくは世界に一日も早く平和が築き上げられ、新高等弁務官が最後の高等弁務官になり、沖縄が本来の正常な状態回復されますように祈ります。……神よ、沖縄にはあなたのひとりイエス・キリストが命をかけて愛しておられる100万の市民がおります。高等弁務官をしてこれら市民の人権の尊厳の前に深く頭を垂れさせてください。そのようなあり方において、主なるあなたへの服従をなさしめてください。天地のすべての権威を持ちたもう神の子イエス・キリストは、その権威を、人々の足を洗う僕の形においてしか用いら

れません。沖縄の最高権者、高等弁務官にもそのような権威のあり方をお示しください。……主なるあなたと沖縄市民に対して、重大な責任を負われる新高等弁務官の就任式に当たり、これらの衷心からの祈りを主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン

これは1966年9月28日アンガー高等弁務官就任に際して祈られた就任式祈禱です。勿論英語のできる方ですが一層正確に整え、他の牧師たちにも伝える中で他教派の方の反対もあつたそうですが、決心して祈られたのです。堂々と彼らを前にこう祈ったのですが、55年後の今も、まだまだ米軍駐留は続いています。金丸の時に始まった思いやり予算まで添えてー！

アフガニスタンから20年後の今年2021年9月、米軍は撤退してきました。武力で平和は作れなかったのに、世界中が争いに向かい、今やAIによって無人殺戮機が得意、殺し殺される状況になってきました。世界はどこに向かっているのでしょうか。

会 計 報 告
2021年 5月～8月

会計 清水章文

収 入		支 出	
会費(9名) (会費累計85名)	18,000 (182,000)	シャローム	14,528
賛助会費(1件)	10,000	編集関係 原稿謝礼(濱田美也子牧師)	5,000
献金(3件)	7,000	印刷関係 用紙代、152号印刷代会場・交通費	8,078
		発送関係費 152号(郵送費)	1,450
		会議費	2,020
		交通費 役員会(6/10)	2,020
		事務消耗品費 通知料金、払込料金	1,683
小 計	35,000	小 計	18,231
前 月 より	208,966	次 月 へ	225,735
合 計	243,966	合 計	243,966

〔会費・献金の納入を、感謝申し上げます。〕
個別の領収証を希望される方は、遠慮なくお申し出ください。従来通り送付いたします。よろしく願いいたします。

(敬称略・順不同)

(年会費)

(岡山神召キリスト教会)水島祥子 (在日大韓基督教会水島教会)姜永昌・金秋子
(日キ倉吉教会)山口収、山本千寿子 (日キ旭東教会)栗原正、宇野稔、成本書子
那須清美、脇本泰・光代

(賛助会費)

日キ八頭教会オリーブの会

(献金)

澁沢久(本庄教会) 三浦修(その他) 脇本淳子(その他)

以上

8月末現在資金残高	
定額預金	0
普通預金	159,356
振替口座	30,600
現金	35,779
合 計	225,735

編集後記

難波幸矢

愛するキ障共会員の皆様、いかがお過ごしですか。

それにしてもコロナ禍ですが、変異を繰り返しなかなか収まりそうにありません。収まらないというよりだんだん身近に迫ってきているように感じます。毎日のニュースで病院に行けないで一人で家に居る間に急変とか、一人で赤ちゃんを産んだとか、どれほどの不安だったことでしょうか。さりとしてじつと家にいるというわけにもいかず、教会関係ではありませんが、市内の方々と毎月の平和推進協議会が集まって委員会を開いています。(老人が多い)ホームレス支援の夜回りは水曜日深夜です。私は月2回しか参加しませんが、理事会は毎月です。夜回りの時は3時間半かけてバナナパン36個と炊き込みご飯のおにぎりも32〜3個作って行きます。おなか空いているだろう、甘いものが欲しいだろうと、勝手に想像して作ります。いい年をして(77歳)そんなに無理しなくても、息子は言葉にこそ出ませんが斜めに見ています。たった月2回なのにすぐに

その日が来ます。続いていることは感謝ですがいつまで続くか分かりません。

それにしても総裁選でテレビも新聞も賑やかです。このシャローム153号が着く頃には誰になっっているのか決まっているのですよね。心にもないことを並べて！と、ついつい言いたくなりますが、そんな思いもあって尊敬する平良修牧師のあの祈りのことを今回掲載しました。読んで下さい。あまりにも夢物語のような祈りと感じるかもしれませんが、戦後すぐ1947年8月2日文部省が発行した中学校一年用社会科の教科書に次のようにあるのです。「そこで今度の憲法では日本の国が決して日本の国が戦争をしないように二つの事を決めました。その一つは兵隊も軍艦も飛行機もおよそ戦争をするためのものは、一切持たないという事です。これから先日本には陸軍も海軍も空軍もないのです。これは戦力の放棄といえます。…」と。この度のシャローム153号は懐かしい方にも投稿して頂きました。元岡山教会牧師の横野朝彦牧師です。はがき大のお手

紙を下さったので、それがとてもタイムリで、しかも大事なことだったので「先生少し膨らませて書いて下さい。」とお願いしたのですが、あまり膨らんでいません。遠慮される方ではないのですが、今後時々投稿して頂くか等と思っています。

もうお一人は、以前このキ障共に講演で来て頂いた石丸昌彦先生です。精神科医で放送大学教授でいらつしゃって、コロナに閑する投稿を教団新報で見つけたので、私の説明調で掲載させて頂きました。そして鳥取側からは前支部長の松岡さんの暖かい文章。盛り沢山です。ぜひぜひ読んで下さい

「シャローム」 第一五三号

発行日 二〇二二年一〇月五日

発行所 東中国キリスト者障害者を

共に学び共に担う会

発行人 事務局長 難波幸矢

〒七〇三一一八 八五五

岡山市中区倉田八五八―八一

電話 〇八六一七六―四六七

振替 〇三三〇・〇・九〇七六九

加入者 「東中国キ障共」